

# やぶれ傘



一〇九号

二〇一九年八月

ざざ降りの昼には上がる豆ごはん 根橋宏次

木漏れ日をすこし外れて龍の髭 大島英昭

羽ばたいてあとは三角夏つばめ きくちきみえ

野良猫の喰ひ差しまでの蟻の道 藤井美晴

雨のまま空の暮れゆく合歓の花 廣瀬雅男

「紫」をごまかして書く溽暑かな 小山よる

マスクしてサングラスして夏帽子 丑久保 勲

レンズ換へ祭屋台の真ん前へ 瀬島酒望

タミア聞くに今夜は少し暑すぎる 青谷小枝

横断のひと無き梅雨の信号機 安藤久美子

靴先が道の小石を蹴つて梅雨 渡邊孝彦

ときどきの居眠りに聞く枝蛙 白石正躬

また少し雨意ある風や花菖蒲 天野美登里

前山に雨雲かかる山女釣 秋山信行

池に風半夏生草右に揺れ 有賀昌子

抄 集 句 傘 紀 大 崎 ぶ れ や

梅雨暗れの並木のベンチ隙間なし 松村光典

蛍火のひとつがすいと神木へ 貫井照子

草茂るホルスタインは点点と 萩原久代

梅雨の月濁りし川を照らしけり 武藤節子

豆飯を井に盛りけふの昼 森 美佐子

静けさの中より香る夜干梅 山本久枝

枇杷落つる音にも慣れて雨の夜 奥田温子

朝曇始発のバスの席埋まり 神山市実

水面に波紋つぎつぎあめんぼう 亀岡睦子

時の目のからくり時計雨しとど 倉澤節子

軽口をたたける奴と泥鰌鍋 黒澤次郎

駅までを右に左に薔薇を見て 小巻若菜

昼顔の川辺に吹かれあたりけり 齋藤朋子

初夏の明るき雨を眺めある 柴崎和男

衝立に上衣ひっかけ泥鰌鍋 高橋 均

夾竹桃

大崎紀夫

みぎひだり鑄物工場の塀灼けて  
停まりたる車のわきを揚羽蝶  
ここいらの砂地明るし蟻地獄  
板の間の方へと蠅虎は跳び  
アーケードはづれの店は水打つて

山裾が見えてゐるだけ岩煙草  
沖晴れて船小屋前の除虫菊  
やまべ釣る隣りで鮎を釣りにけり  
テーブルの端に日当るかき氷  
夾竹桃浜で流木焚くにほひ  
海鳴りに近くたうもろこしの花  
鳴焼は熱く小島がふたつ見え

豆ごはん

根橋宏次

ざざ降りの昼には上がる豆ごはん  
人参の花と教へてくれにけり  
信金の角をまがつてくる神輿  
茄子の花すこし歩いて茄子の花  
かなぶんをつまむに少しだけ力  
橋にふる雨を見てゐる泥鰯鍋  
坂なりの夜店の脚にかます石  
ごきぶりをつつみし紙がひろがつて  
舟虫の散りつつ戻りくる気配  
片方の頬へかちわり回しけり

龍の髭

大島英昭

栗の花空き地ばかりのその向かう  
ポンプ小屋こはれたるまま小昼顔  
見覚えのある田と家と立葵  
足とめてバイクを避ける野萱草  
畑中へ一步鉄砲百合を撮る  
木漏れ日をすこし外れて龍の髭  
掃きだめに馬鈴薯の花いま盛り  
女貞咲けり細かき雨が降り  
ひまはりの家のあたりで雨にあふ  
青柿を蹴れば鴉の羽根がある

夏つばめ

きくみきみえ

銀蠅の来るかともれば行つたきり  
炎昼の重なつてゐる交差点  
梅雨の夜の底へと枕くぼみたる  
十字路の角のひとつの片陰り  
救急車パトカーとゐて梅雨の昼  
馬の高さ人の高さに木槿咲く  
雨雲のほころびに七月の空  
夏落葉カレーの店にいく途中  
羽ばたいてあとは三角夏つばめ  
レジ袋一つに西瓜ひとつかな

炎昼

藤井美晴

杏の実落ちて小さな雨となる  
梅雨寒と思ふアボカド食ひながら  
ががんぼのしがみつく手が離れない  
酔客にその名を訊かれ立葵  
パトカーが何か叫べり氷雨降る  
野良猫の喰ひ差しまでの蟻の道  
どくだみの盛り園児の散歩道  
夏蒲団右足の爪ひつかかる  
炎昼の舗装道路を歩く影  
草いきれ西に名前を知らぬ山

合歓の花

廣瀬雅男

柿の花零れて犬の吠えにけり  
野萱草土手にひととき日の差して  
立話して居るやうな蟻と蟻  
前山に雨後の日の差すほととぎす  
雨のまま空の暮れゆく合歓の花  
交差点渡る男の日傘かな  
妻と居てメロンひとつを持って余す  
人を呼ぶやうに揺れたり氷旗  
御手洗に夏の落葉を踏みながら  
灯りたる踊り櫓や雨の中

ががんぼ

小山よる

昼寝する脚を器用に折り畳み  
梅雨晴間わりと写真は上手く撮れ  
五月闇また疼きだすいつもの歯  
明易し踏切鳴れば鴉鳴く  
昼寝覚め足先のもの遊び  
雨の降る外階段に金亀子  
五月雨や埃絡まるペンの先  
空梅雨の玉子歪んで焼けにけり  
「紫」をごまかして書く溽暑かな  
ががんぼの寄つてきてまたずらす席

夏帽子

丑久保勲

教会の聖句書き替へられ立夏  
ちかちかとバスの寄りくる立葵  
道端の住居表示 凶立葵  
揚<sup>やま</sup>梅<sup>も</sup> 熟る 古本市の傍らで  
午後の雨すこし強まり半夏生草  
トラックがひつきりなしに麦の秋  
マスクしてサングラスして夏帽子  
サッカーのテレビ中継明け易し  
なだらかな磴のぼりきて岩タバコ  
ガラス器の対のさくらんぼを摘まみ

日の盛り

瀬島洒望

えごの花散るゆるやかな上り坂  
腹見せてよぎる旅客機花菖蒲  
紫陽花に触れて自転車停めにけり  
番組を中断雷雨注意報  
砂浜にうづたかく綱浜万年青  
コースとは別に鯰の天婦羅を  
日の盛り棒持つて立つ修行僧  
水指も茶碗もガラス夏点前  
神主に権禰宜日傘差し掛くる  
レンズ換へ祭屋台の真ん前へ

ダミア

青谷小枝

誰もゐぬ子供土俵に夏落葉  
引き取りし仔猫に鳴かれゐる雨夜  
花ふたつつきたるトマト苗を買ふ  
梅雨の雷附箋の端のそり返る  
庭石菖薄茶の泡の残る碗  
夏館奥に二畳の化粧の間  
二丁目の本屋の跡地夏の昼  
ががんぼのしやしやしやら触れてとどまらず  
ダミア聞くに今夜は少し暑すぎる  
フレッシュなトマト冷製カッペリーニ

蚕豆

安藤久美子

紫陽花の後ろの壁の塗られけり  
梅雨晴れ間十年旅券更新す  
青梅雨を釣り人のゆく河川敷  
山百合の丈の高さを見上げたる  
蚕豆のあをきを口へ続けざま  
あゝ今日は鬼灯市か浅草は  
虹薄れ解体工事音高し  
瀧音へ近づいて来る話し声  
梅雨湿り簡易書留届きけり  
横断のひと無き梅雨の信号機

梅雨

渡邊孝彦

六年の女子の騎馬戦樟若葉  
靴先が道の小石を蹴つて梅雨  
棕の木をぐるつと囲み蔦茂る  
あめんぼが走りまくつて藻に休む  
武蔵野の茂りの中を歩きけり  
仏具店前の並木を夏の蝶  
くちなしの花を湿らす程の雨  
蛞蝓が回廊の壁這へば雨  
風鈴のこゑの澄んだり濁ったり  
砂山のトンネルへ来る夏の波

枝蛙

白石正躬

ゆすらうめ葉隠れに実の色づきて  
ときどきの居眠りに聞く枝蛙  
ひとり居の手持ちぶさたに草を引く  
大きな目の枇杷を五個ほどもぎりけり  
スーパールの軒下を出る夏燕  
田に立てば青田を揺する風が来て  
コーヒーのさめるを待てる日の盛り  
砂利道を汗をかきかき犬と行く  
船の客日傘くるくる回しぬる  
さぎ草は蕎麦屋のすみの白き鉢

花菖蒲

天野美登里

また少し雨意ある風や花菖蒲  
菖蒲田に人来る雨の日曜日  
木洩れ日はベンチに定家葛咲く  
小学校の始業のチャイム代田搔き  
西日濃し潮の満ち来る波の音  
振花や泡ひとつ吹く池の鯉  
バス停のベンチ塗り立てえごの花  
崖に花萱草のこぼれゐる  
古井戸は蓋されてをり苔の花  
川蝦の水に濁りをたてにけり

山女釣

秋山信行

風薫るベンチにひとり足を組み  
自転車の路ゆづり合ふ立葵  
前山に雨雲かかる山女釣  
鰻井歩くと床の軋む店  
丸く紅ほつぺに付けて祭の子  
荷に重き新玉葱を兄弟に  
老犬の歩みは遅し梅雨曇り  
新じやがの小粒も数と揃へけり  
向家に足場の組まれ夏の雲  
幼子のドリブルつづく蛇苺

半夏生草

有賀昌子

香水の残り香むつと水族館  
時の日の花時計いま工事中  
渚まで続くハイビスカスの花  
奥社へと続く小流れ延齡草  
奥信濃薄暑の道の土埃  
棟上げの幣はひらひら夏の蝶  
露天風呂夏うぐひすに誘はれて  
池に風半夏生草右に揺れ  
よく笑ふ双子の姉妹花柘榴  
夕立ち止み間延びしてなるオルゴール

ベンチ

松村光典

ころころと小さな小さな桜ん坊  
公園は緑にみどり重なりて  
公園に少女のホルン梅雨の晴れ  
種混じる鳥の糞あるベンチかな  
これも梅雨ひねもす飛沫上げる雨  
抱かれて手足ぶらぶら梅雨晴れ間  
梅雨晴れの並木のベンチ隙間なし  
梅雨中休み雨傘日傘入り混じる  
梅雨晴間物の影みなくつきりと  
ペランダにみみず這い出で涸れにけり

## ◇ 9月・10月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
9月	3日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン1	瀬島 孟
	4日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン6	丑久保 勲
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	28日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	28日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
10月	1日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン4	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	見沼・通船堀など	丑久保 勲
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

10月20日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所はJR武蔵野線・東浦和駅改札を出たところ。

吟行地は見沼・通船堀と芝川など。

句会場は武蔵浦和コミセン第1集会室。

◎連絡先

瀬島 孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856